

## 地理歴史部会

研究主題 「教員の相互研鑽を通じた地理歴史科の授業改善の工夫」

### 研究の概要

生徒が自ら問題の所在に気付き、主体的に考察・判断し、問題を解決する能力を身に付けることができる授業を実現するために、従来の「生徒による授業評価」に加え、新たに開発した「授業改善のための授業観察シート」を活用して、教員が相互に授業を観察し合うなどの研鑽を深めることで、授業力の向上を図る方法について研究した。

### I 研究の目的

平成12年の教育課程審議会答申は、知識や技能だけではなく、思考力、判断力、表現力、自ら学ぶ意欲・態度を適切に評価・指導していくことを求めている。これを受けて、東京都教育委員会は、「年間授業計画」を生徒・保護者に提示するとともに「週ごとの指導計画」を作成した上で授業を行い、「生徒による授業評価」を活用した「授業改善」を提示し、全都をあげてこれに取り組んできた。

さらに、平成16年に発表された東京都公立学校の「授業力」向上に関する検討委員会報告書は、「今後は、学校、研究・研修機関、教科等教育研究会等の場において、これまで以上に教員の相互研鑽の場や条件を意図的に設定していくことが重要である。」としている。

これらを踏まえて、本部会では、各学校において教員が相互に授業を公開し、教科等の専門性の枠を越えて、観察し合うなどの相互研鑽が、「授業力」の向上を図るためには有効であると考え、その際のツールとして「授業改善のための授業観察シート」を開発することとした。「生徒による授業評価」と併せてこのシートを校内研修等において活用し、授業内容・方法等について、教科等の専門性を越えた横断的な視点からの評価を得ることで、これまで個々の教員や教科等の枠の中で行われていた「授業改善」及び「授業力」向上のための取組が学校全体に広がっていくものと考えた。

### II 研究の方法

本部会では、各委員の世界史・日本史・地理それぞれの授業を相互に観察し、助言・批評をし合う中で、教員が授業を改善する際のポイントを探る「授業改善のための授業観察シート」を作成した。

シート作成に当たっては、所属校の他教科・科目の教員の協力を得ることで項目の精選と汎用化を試みた。地理歴史科にとどまらず、あらゆる教科で使用できるよう項目を設定することで、教科等の専門性の枠を越えた相互研鑽が可能となり、校内研修等にも活用できるものとなるよう心がけた。

### Ⅲ 研究の内容

#### 1 「授業改善のための授業観察シート」作成の要点

本部会では「授業改善のための授業観察シート」（以下「シート」という。）を様々な視点から協議し作成した。作成において留意した点は次の2点である。

- |                |
|----------------|
| 1 実際に使用しやすいシート |
| 2 全教科で活用できるシート |

まず、実際に授業観察の場面での使用に耐えうるものにしたという点である。1回きりの45分又は50分の授業を観察しながら、単なる感想ではなく、その授業の改善点を的確に指摘するのは、意外と困難な作業である。使用しやすいシートには何が必要か、または不必要か。項目数はどれくらいが妥当か。そしてなにより、「授業改善」を目的とする場合、どのような視点が重要か。考慮する点は多岐にわたった。

次に今年度の共通研究主題の一つである「教員の相互研鑽」という視点を踏まえ、他教科の教員が地理歴史科の授業を観察する場面も想定し、地理歴史科を越えて使用できる汎用性の高いシートの作成を心がけた。

項目の置き方は、実際に使用する場面を想定し、実際の授業の流れに沿うように、「導入→展開→まとめ」という指導案の基本的な流れと合致するように設定した。また、項目数も精選し、26項目とした。

「1 導入」では授業開始の短時間で、生徒が前時との関連を確認し、本時の学習に入っていけるよう指導しているか、という点を考慮して3項目をたてた。

「2 展開」では「(1) 授業の構成」で「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4つの評価の観点を踏まえた展開になっているかを項目だてし、さらに授業の進度など基本的な項目を加えた。

「(2) 授業の技術」は、「授業改善」に直接役立つ項目であり、4項目に精選した。

「(3) 発問」は、共通研究主題である「個に応じた指導」という点から考えると最も重視したい項目であり、あえて「(2) 授業の技術」とは独立した項目をたてた。

「(4) 授業進行上の配慮」では、実際の授業で想定される様々な場面での指導にどのように取り組んでいるかを確認する4項目を取り入れた。

「3 まとめ」では「1 導入」と対応させ、1回の授業が有機的に機能し、一つのまとまりのある授業になったかどうかを重視した項目を加えた。

最後に、全体が教科の枠を越えた汎用性の高いシートなので、授業者が地理歴史科独自の視点を強調したい場合、授業者が特にここを見て欲しいという点があれば、柔軟に対応できるように「4 本授業での独自の視点」を加えた。

さらに、全項目に自由記述欄を設けた。授業全体に対する漠然とした「感想」を記述するのではなく、各項目に基づいた記述をする自由記述欄であるので、記述が散漫になることを防ぐことができ、有効な意見を集めることができる。

## 授業改善のための授業観察シート

観察日時	年 月 日( ) 限	観察クラス	観察者氏名
------	------------	-------	-------

[チェック欄の記入法] A欄:その項目が達成できていればレ点 / B欄:その項目に改善の余地があればレ点

### 1 導入

	A	B	
①			前時とのつながりが明確に説明されているか。
②			「本時のねらい」が明確に説明されているか。
③			生徒の興味・関心を引く手だてがなされているか。
(自由記述)			

### 2 展開

(1) 授業の構成			
①			生徒の「意欲・関心」を喚起し、主体的な「態度」を引き出す内容になっているか。
②			生徒の「思考・判断」を引き出す内容になっているか。
③			資料等を活用する「技能」や自分の意見を「表現」できる力を培う内容になっているか。
④			「知識」を身に付けさせ、「理解」を深める内容になっているか。
⑤			展開過程に「山場」があり、それがうまく配置されているか。
⑥			授業進度や時間配分は適切か。
⑦			基礎的・基本的事項を踏まえた上で発展的事項へ展開させているか。
⑧			各科目の独自の視点を生かした内容になっているか。
(自由記述)			
(2) 授業の技術			
①			板書は生徒が理解しやすいようにまとめられているか。
②			学習に役立つワークシートになっているか。
③			聞き取りやすく、理解しやすい言葉で話しているか。
④			教科書以外の教材の内容、活用方法は適切か。
(自由記述)			
(3) 発問			
①			発問は生徒の理解を促すように工夫されているか。
②			様々な生徒の見方や考え方を引き出し、多様な見方や考え方に触れる機会を生かしているか。
③			生徒の発言や質問を上手に取り上げ、授業を進めているか。
(自由記述)			
(4) 授業進行上の配慮			
①			机間指導を有効に取り入れているか。
②			授業規律を維持しているか。
③			緊張感を維持する工夫があるか。
④			生徒の反応、理解度に応じ、適切な進行をしているか。
(自由記述)			

### 3 まとめ

①			本時の要点が明確にまとめられているか。
②			次時につながる予告が適切になされているか。
③			授業の随所で生徒が自らの理解度を確認できる機会を設けているか。
④			導入で示された「本時のねらい」が達成できたか。
(自由記述)			

### 4 本授業での独自の視点

①			
②			
(自由記述)			

## 2 日本史Bにおける授業改善シートの活用事例

- (1) 単元 平安初期の政治と文化
- (2) 単元のねらい 桓武・嵯峨朝を中心に、古代国家の推移と社会の変化について、新しい文化の成立とも関連付けて理解させる。
- (3) 指導計画 第1時 平安遷都  
第2時 律令から格式へ  
第3時 弘仁・貞観文化…【本時】
- (4) 本時のねらい  
ア 最澄・空海の名をあげ、どのようなことを知っているかを質問することによって授業内容への関心を高める。 【意欲・関心・態度】  
イ 図説を使用して、密教の影響はどのような点に現れているか、また他の文化と比較してどのように異なっているか考察させる。 【思考・判断】  
ウ ワークシートを使用して、重要語句の理解及び弘仁・貞観文化の特色について簡単にまとめさせる。 【技能・表現】  
エ 密教の内容・特色を示し、弘仁・貞観文化が密教と深くかかわっていることや文学面では漢詩が中心であることを理解させる。 【知識・理解】

### (5) 本時の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
弘仁・貞観文化(人物や文学・芸術など)に関心をもち、主体的に学習している。	弘仁・貞観文化を単独なものとしてとらえず、他の時期の文化の写真等から他の時期の文化と比較し、また現代の文化とのつながりについて様々な側面から考えている。	図説の写真から弘仁・貞観文化の特色を読み取り、またワークシートを適切に活用して弘仁・貞観文化の重要語句の理解・要点整理をしている。	弘仁・貞観文化の特色を理解し、宗教・文学・芸術などが互に関連していることを理解している。

### (6) 本時の学習指導案(波線部が改善点)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	●奈良時代の仏教の復習と最澄・空海的人物像	○天平文化の特色や具体的な文学・芸術を挙げる。 ○最澄・空海はどのような人物であったかを考える。	○天平文化について自由に発言させて、前時までに学習したことを思い出させる。 ○ <u>最澄・空海的人物像やことわざなどを質問して、授業への関心を喚起する。</u>
展開	●宗教 ・密教 ・神仏習合と修験道	○天台宗と真言宗を比較しながら違いを理解する。 ○密教と従来の宗教との違いを理解する。 ○ <u>天台宗と真言宗の年代・開祖・中心寺院・特色などをワークシートに書き込みながらまとめる。</u> ○神仏習合や修験道と密教のかかわりを理解する。	○天台宗と真言宗の特に異なる点を明確に説明する。 ○空海のエピソードを紹介し、興味をもたせる。 ○神仏習合の事例を考えながら現在にも例は多く存在していることを考えさせ、興味をもたせる。

開	<p>●文学・教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢詩</li> <li>・教育</li> </ul> <p>●芸術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築</li> <li>・彫刻</li> <li>・絵画</li> <li>・書道</li> </ul>	<p>○かなの発明は、次の国風(藤原)文化であり、弘仁・貞観期は漢詩が文化の中心であることを理解する。</p> <p>○ワークシートを使用して氏族と大学別曹の関係をまとめる。</p> <p>○伽藍配置が従来と大きく異なる点を図説から理解する。</p> <p>○一木造・翻波式を図説で確認させ、代表的な彫刻の特色を読み取る。</p> <p>○曼荼羅・不動明王像が密教芸術であることを理解する。</p> <p>○この時期の書道は力強い唐風書道であることを他の時期の書風と比較して読み取る。</p> <p>○ワークシートを使用して芸術分野について作品名等をまとめる。</p>	<p>○勅撰漢詩文集や主な漢詩人をあげて理解させる。</p> <p>○当時の教育と現在の教育の類似点をあげて関心を高める。</p> <p>○室生寺が山岳寺院であり、従来の伽藍配置が不可能であることを理解させる。</p> <p>○従来の彫刻様式との違いを理解させ、一木造の難しさについて考察させる。</p> <p>○従来の仏像と不動明王像との違いを図説で判断させる。その際に質問形式をとり授業にメリハリをつける。</p> <p>○国風書道を図説で見て、弘仁・貞観書道との違いを確認させる。</p> <p>○芸術面では特に他文化との比較をしながら単に弘仁・貞観文化のみにとらわれないように広く文化を関連付けて考察できる力を養うように導く。</p>
ま と め	<p>●本時のまとめ</p> <p>●次時の予告</p>	<p>○本時の内容で印象に残った事柄を自由に発言させて関心を高め、授業の内容を再確認する。</p> <p>○次時で学習する内容を確認する。</p>	<p>○興味をもった生徒に対し、参考図書をあげ、更なる学習意欲を高めるように喚起する。</p> <p>○本時で「平安初期の政治と文化」が終了したので、次時の初めに簡単な確認テストを行うことを予告し、知識の定着を図るとともに、復習の習慣付けをする。</p>

(7) 「授業改善のための授業観察シート」を使った授業の改善点

「授業観察シート」の指摘の中で、「(1)授業の構成」の項目に特に留意する必要があると感じた。従来の授業は「指導者側からの知識の伝達」という授業形態が多く、生徒の「知識・理解」を深めることに重点を置き、生徒が「思考・判断」する場面をあまり作ってこなかった。そこで、「導入」に弘仁・貞観文化に対する「意欲・関心・態度」を高めるような質問を取り入れてから、展開に入るように指導案を改善した。展開では図説の写真から文化の特色を読み取る時間を多く取り、あわせて他の時期の文化の写真も見ることで、文化の異なる点について考察し、判断させるように努めた。ワークシートは最後に使用するのではなく、項目ごとに使用して単調な授業にならないように改善した。

「授業観察シート」の指摘を有効に使用することにより、観察者から助言された授業者の良い点・改善点が把握しやすく、今後の授業を改善・工夫して役立てることができた。



### 3 地理Bにおける「授業改善のための授業改善シート」の活用事例

(1) 単元 「資源の生産と消費」

(2) 単元のねらい 世界の資源について、系統地理的学習に適切な事例を取り上げて大観させる。また資源の特色と基礎的知識を定着させ、資源をめぐる国際社会と日本の現状と課題について考察させる。

(3) 指導計画 第1時 エネルギー資源の生産と消費…【本時】  
 第2時 鉱産資源の生産と消費  
 第3時 資源の偏在と国際社会①(メジャー・資源ナショナリズム)  
 第4時 資源の偏在と国際社会②(石油危機・近年の石油をめぐる動向)  
 第5時 資源の利用と問題点  
 第6時 日本の資源問題

(4) 本時のねらい ア 日常生活を支えるエネルギー資源について関心を高め、その有り様について主体的に追究させる。【関心・意欲・態度】  
 イ エネルギー資源の生産国・消費国の地域性や産業の特色、エネルギー利用と環境問題の関連性について多面的に考察させる。【思考・判断】  
 ウ エネルギー資源の分布・生産・消費に関する地図・グラフなどを活用し、学習内容をワークシートに適切に記入、記述させる。【技能・表現】  
 エ 主なエネルギー資源の種類・分布・生産と消費の特徴を、世界的視野から地域性を踏まえて理解させる。【知識・理解】

(5) 本時の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
エネルギー資源について関心を持ち、主体的に学習している。	エネルギー資源の生産国・消費国の地域性や産業の特色、またエネルギー利用と環境問題の関連性について多面的に考察している。	エネルギー資源の分布・生産・消費に関する地図・グラフなどを活用するとともに、本時の学習内容をワークシートに適切に表現している。	主なエネルギー資源の種類・分布・生産と消費の特徴を理解している。

(6) 本時の学習指導案

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	●1次エネルギーと2次エネルギー	○日常生活を支えているエネルギー資源の種類をあげる。 ○1次・2次エネルギー、化石燃料とは何か理解する。	○石炭・石油の実物を提示し、天然ガスについては、近年「天然ガス自動車」の開発が目ざされている点を紹介し、資源の学習に興味をもたせる。
展	●石油(原油)の生産と消費 ・分布 ・生産国と消費国 ・主な油田  ●石炭の生産と消費	○図(エネルギー消費量の推移)を見ながら、本時で学習する資源について確認する。 ○図・資料を使い、石油の分布の特徴(西アジアへの偏在)やその理由、主な生産国と消費国について理解する。 ○ <b>主な生産国と消費国、分布の特徴、主な油田などをワークシートに記入する。</b> ○図・資料を使い、石炭の生成、	○各資源の分布図を参照させ、主産地が地域的に偏在していること、また分布の特徴は既習事項の大地形と関連させながら捉えさせる。 ○流線図を使い、各資源の国際間移動の特徴を捉えさせる。 ○図表を参照させる際は、そこから諸事象を読み取るための視点や方法について解説する。 ○埋蔵量は、可採年数の資料を提示し、第5時で扱う「資源の枯渇」の学習に

開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分布</li> <li>・生産国と消費国</li> <li>・主な炭田</li> </ul> <p>●天然ガスの生産と消費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主な生産国</li> <li>・クリーンエネルギー</li> </ul>	<p>分布の特徴（古期造山帯に分布）、埋蔵量、主な生産国と消費国について理解する。</p> <p>○主な生産国と消費国と分布の特徴、主な炭田などをワークシートに記入する。</p> <p>○図（天然ガス消費量の推移）を見て、消費量の増加とその背景について理解する。</p> <p>○主な生産国・消費国について理解するとともに、天然ガスがクリーンエネルギーと呼ばれている理由や環境保全との関連性について考察する。</p>	<p>つながるように配慮する。</p> <p>○生産国と消費国を理解させる際は、各国の地域的差異や類似性に気付かせるように工夫する。</p> <p>○ワークシートの作業では、資料集や地図帳を活用するように指示し、机間指導により生徒の作業を援助する。</p> <p>○天然ガス普及の背景にある輸送技術の発達などについて紹介する。</p> <p>○天然ガスがクリーンエネルギーと呼ばれる理由については複数の生徒に発問し、多様なとらえ方を紹介しながら、第5時の内容を踏まえ、生徒の問題意識を喚起できるように工夫する。</p>
まとめ	<p>●本時のまとめ</p> <p>●次時の予告</p>	<p>○図（エネルギー消費量の推移）を見ながら、本時で学習した資源を対比させ、各々の特徴や地球的課題との関連性を再確認し、本時を振り返る。</p> <p>○次時で学習する範囲（鉱産資源の生産と消費）を、教科書などで確認する。</p>	<p>○地球の資源に関する参考図書を紹介し、より学習を深めたいという生徒の興味・関心を喚起する。</p> <p>○ワークシートの未完成部分は宿題とし、次時に提出するように指示する。その際、作業の手順を生徒に示し、円滑に取り組めるように配慮する。</p> <p>○次時の予告では、多様な資源が国際的流通を通して日常生活を支えていることに触れる。</p>

(7) 「授業改善のための授業観察シート」を使った授業の改善点

シートの中で、本時の改善にもっとも有効だったのは、『様々な生徒の見方や考え方を引き出し、多様な見方や考え方に触れる機会を生かしているか』という視点であった。授業は生徒同士が学び合う「場」であることを考えると、生徒が友人たちの様々な発言に触れる機会を設定することはとても重要である。本時は単元の第1時ということで、生徒の発言を扱うよりも知識・理解に重点が置かれ単調な構成になりがちだった。そこで、指導案に波線部を加えて改善し、より変化のある授業が展開できると考えた。

また、『「本時のねらい」が達成できたか』『授業進度や時間配分は適切か』という視点も参考になった。検証授業では、予定した作業学習と参考図書紹介が時間内にできなかった（指導案の 部分。作業については生徒に手順を示した上ですべてを宿題とし、図書紹介は次時の導入に活用することにした。）。内容を石油と石炭に絞って作業学習の時間を確保したらどうかという助言も寄せられた。いずれにしても、授業時間に対応して学習の内容を精選し、授業のねらいが確実に達成できる構成・展開を強く意識していく必要がある。

このシートは、チェック項目が具体的で授業の進行に沿って並んでいるため、改善の余地を一目で把握でき改善策が立てやすかった。授業でのよい面や達成できている点も一覧できるので、改善のポイントが絞りやすいという利点がある。また、観察者もシートを使うことで授業者に助言を簡潔に伝えられる。授業を改善する具体策の発見を通して、シートの多様な有効性が検証できた。

#### 4 世界史Aにおける「授業改善のための授業観察シート」の活用事例

他教員との相互研鑽以外の活用方法として、「授業改善のための授業観察シート」を「自己振り返りシート」として活用した授業改善を試みた。

##### <検証前の学習指導案>

- (1) 単元 アメリカ合衆国の独立と発展
- (2) 単元のねらい アメリカ合衆国の成立と発展について多民族国家の理解という観点を取り入れて学習し、独立宣言や合衆国憲法の理念に照らし合わせて基本的人権について様々な立場から考察する。
- (3) 指導計画  
 第1時 合衆国独立以前の北米大陸  
 第2時 アメリカ独立革命  
 第3時 合衆国の領土拡大と先住民・奴隷…【本時】  
 第4時 南北戦争と奴隷解放宣言
- (4) 本時のねらい  
 ア 奴隷制度の実態について奴隷の立場で想像させる。 【関心・意欲・態度】  
 イ 先住民・奴隷の権利を独立宣言と対比させ、白人・先住民・奴隷それぞれの立場から考察させる。 【思考・判断】  
 ウ 自分の意見を的確にまとめて積極的に発表させる。 【技能・表現】  
 エ 合衆国の領土拡大と先住民の排除について理解させる。 【知識・理解】

##### (5) 本時の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
先住民や奴隷の実態や権利について想像し、独立宣言との矛盾に気付いている。	史料について白人・先住民・奴隷それぞれの立場で考察している。	自分の意見を的確にまとめて積極的に発表している。	合衆国の領土拡大と先住民排除の事実関係を理解している。

##### (6) 本時の学習指導案

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	●前時の復習	○独立宣言の内容を確認する。	○教科書で内容を確認させる。
展開	●領土の拡大	○地図を読み領土拡大とフロンティアの西漸について理解する。	○教科書を参照させて白地図の作業をさせる。
	●開拓と先住民	○先住民代表が大統領に語った言葉から、先住民の提案と心情について考察する。	○史料を読ませ、先住民と白人の関係及び白人に対する先住民の提案を理解させる。
開	●先住民の排除	○白人による土地収奪の実態について理解する。 ○強制移住の様子を理解する。 ○「明白な天命」について理解する。	○図版「条約に調印する先住民」を活用して理解させる。 ○「涙の道」を例に理解させる。 ○何が先住民排除を正当化したかを考えさせる。
	●奴隷制	○奴隷売買について理解する。 ○奴隷の労働の実態について理解する。	○図版「黒人奴隷の入荷の広告」を見て何の広告か考えさせる。 ○史料を読ませ、奴隷の立場に立って実態を想像させる。
まとめ	●本時の復習	○独立宣言と先住民・奴隷の権利の矛盾に気付く。	○教科書を読ませて確認させる。



(7) 「自己振り返りシート」として活用した授業の検証と改善の工夫

「導入」…「前時とのつながり」を強調することで、独立宣言を意識させて生徒の思考の視点（先住民の権利）を明確にさせ、学習の動機付けを図る。

「展開」…「本時のねらい」に対する授業者の意識が高まった結果、授業内容をより絞り込んだ方が生徒の思考・判断を十分に引き出せると考えた。本時では先住民と奴隷を扱ったが、奴隷制は次時に回すことにした。授業内容を絞り込むことによって「各自の考察→発表・意見交換→各自の思考の深化」の時間を十分に確保できるようになった。その結果として「様々な生徒の見方や考え方を引き出し、多様な見方や考え方に触れる機会を生かしているか」の改善になり、また授業の「山場」にもなる。

「まとめ」…「本時の要点」に焦点を当てて「本時の授業内容がなぜ重要なのか」を考えさせることは、一年間を通せば「なぜ世界史を学習するのか」という重要な問いに結び付くことである。限られた授業時間内ではあるが「まとめ」は大切である。

今回の「自己振り返り」によって授業の内容を精選し焦点を絞ることができ、このシートが「自己振り返り」による授業改善にも有効であることを確認した。本時の場合、奴隷制の内容を削り、「明白な天命」の理解を深めるための史料と発表・意見交換を加えた。これによって単なる知識の学習にとどまらず、「明白な天命」が登場した背景やこの価値観の根底にあるものに対する疑問や興味・関心を引き出すことができた。

<改善後の学習指導案（波線部が改善点）>

(5) 本時の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
先住民や奴隷の実態や権利について想像し、独立宣言との矛盾に気付いている。	史料について白人・先住民・奴隷それぞれの立場で考察し、 <u>さらに他人の意見を参考にして自分の思考を深めている。</u>	自分の意見を的確にまとめ積極的に発表している。	合衆国の領土拡大と先住民排除の事実関係を理解している。

(6) 本時の学習指導案

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	● <u>前時と本時の関連</u>	○ <u>独立宣言の復習をし、前時と本時が関連していることを知る。</u>	○ <u>独立宣言を意識しながら授業に臨むようにさせる。</u>
展開	●領土の拡大	○地図を読み領土拡大とフロンティアの西漸について理解する。	○教科書を参照させて白地図の作業をさせる。
	●開拓と先住民	○先住民代表が大統領に語った言葉から、先住民の提案と心情について考察する。	○史料を読ませ、先住民と白人の関係及び白人に対する先住民の提案を理解させる。
展開	●先住民の排除	○白人による土地収奪の実態について理解する。 ○強制移住の様子を理解する。 ○「明白な天命」について理解する。	○図版「条約に調印する先住民」を活用して理解させる。 ○「涙の道」を例に理解させる。 ○何が先住民排除を正当化したのか史料を読んで考えさせる。
	●感想・意見交換	○ <u>先住民の権利について、各自の考察と発表・意見交換をする。</u>	○ <u>発表・意見交換を参考にして各自の思考を深化させる。</u>
まとめ	● <u>本時の要点</u>	○ <u>独立宣言と先住民の基本的人権の関係についてまとめる。</u>	○ <u>本時の要点は何か、生徒自身に気付かせる。</u>

## IV 研究のまとめ

### 1 研究の成果

授業後、「授業改善のための授業観察シート」を受け取った授業者は、それを参考にして自らの授業を振り返ることができる。今回作成した「授業改善のための授業観察シート」の利点は1枚のシートの中に授業を改善するための観点が凝縮されていることである。つまり「一覧性」があり、授業者にとっては改善の余地があれば一目で把握することができ、改善策を立てやすい。また、改善すべき点だけではなく、達成することができた点についても確認することができるため、自分の授業の傾向を知ることに役立つ。

さらに、このシートは教材研究、授業準備をする際の基本的な姿勢を確認することができる。授業者が授業をする前にこのシートの項目を十分理解していれば、より充実した授業をすることができる。すなわちこのシートには授業を準備するに当たって心がけるべき項目が盛り込まれている。

観察者にとっても、項目が整理されていることで言いたいことを的確に伝えられるという利点がある。項目がほぼ授業の進行に従って配列されていることも、観察しながら記録するという負担を軽減する。

### 2 研究の課題

実際にこのシートを使用して授業を観察していると、項目によっては「達成できている」と「改善の余地がある」のいずれにも当てはまらないことがあった。それは、このシートが講義形式の授業を想定しているからである。単元内の授業計画によっては、講義形式になる授業とそうではない授業が存在するため、該当しない項目があったとしてもかまわない。ただし、授業者も事前にシートの項目に目を通しておく必要はある。

観察者の立場からは、授業は必ずしもシートの項目の配列どおりに進行するとは限らないので、そのような場合でもすぐに対応できるように、あらかじめシートの項目を理解した上で授業を観察する必要がある。また、シートの項目数は観察する際の負担を軽減するために最小限の26に絞ったが、シートに載っていない観察の視点はもっとたくさんある。しかしそれは自由記述欄で補うことができる。授業の進行が時間どおりでなかった場合には「まとめ」の項目がチェックできないが、そのときも同様である。

### 3 まとめ

授業観察シートによって授業者と観察者の双方が意見交換をしやすくなり、授業改善が進むことが期待される。つまり、以下のような流れができる。

- ①授業者がシートの項目を把握する。
- ②授業者が授業を行い、その授業を観察者がシートを記入しながら観察する。
- ③観察者が授業者にシートを渡し、意見交換する。
- ④授業者がシートを参考にして授業を改善する。
- ⑤以後、この流れの繰り返し。

授業観察シートを使用することによって、授業を改善することに向けて授業者と観察者との間により循環が生まれる。このような相互研鑽をすることで、「授業力」の向上を図ることができ、こうした循環が校内研修等で学校全体に広がることにより、「授業力」の向上に向けた学校全体の取組を促進することができる。